

いつもあなたと共にいる

ドン・ボスコの風

BOLLETTINO SALESIANO • gennaio 2011

聖ヨハネ・ボスコ

聖遺物巡礼記念特別号

No. **6**



**ドン・ボスコが
日本にやってくる!**



ドン・ボスコがやって来る――

19世紀イタリアから21世紀日本へ

「やあ、こんばんは。これから走りに行くの？」
「あんた、だれ？」
「私はドン・ボスコ……と言ってもわかるはずないね。ちょっとみんなの話が聞きたくてね。声かけさせてもらったんだ。」
「なんか変な日本語だな。ま、面白そうだけど」
「よろしく。みんなは今、どんな感じ？」
「別に。こうやって集まって、話とかして、それで走りに行って、気に入らなければぶん殴って、だよ」
「学校とか仕事は？」
「退学して定時に行つてやめて、通信も行ったけどやめた。今は夜、清掃の仕事。こいつは昼間、塗装。あいつはブー」
「そう。けっこうまじめだね。ほかの友達は何？」
「家がけっこうワケありつてヤツが多いかな」

空を切り裂くように乱立する高い建物、まるでコンクリートの林のようだ。人の多さはトリノやローマとも比較にならない。煙の出ない汽車がすごい数の人を乗せて走っている。変わらないのは、次の時代を担う若者たちがいるということだ。わつ、なんだ、あの男の子たちのズボンはい！ ずいぶんずり下がって下着が見えてるぞ。ベルトを買ってあげたほうがいいな。おっと、この女の子たちのスカートはなんて短いんだ！ よく警察に捕まらないな。ま、とりあえずこの子たちは元気そうだ。神に感謝。ふむ、もう少し今の日本の若者たちのことを知りたい。それには、ストリートに出て若者に直接出会うのが一番だ。彼らが教えてくれる。あつ、あそこで大きな二輪車の周りに集まっているな。話しかけてみよう。

「そうか。家でいろいろあると辛いよね」
「虐待されて家出してるヤツもいるし。施設脱走してるヤツとか、けっこうヤバイ人たちの仕事手伝ってるヤツとか。リスカもある。そうそう、引きこもって出てこないヤツもいるな。会えないけど」
「女の子たちはどうなのかな？」
「もしかして、おじさん援交探してんの？」
「エンコー？ 何だい、それ？」
「ガチで知らねーの？ 要するに体売って、飯おごってもらったり、服買ってもらったり、金もらったりだよ。ケータイ代払えないからとか、泊まる所ないからってヤツもいるけどな」
「それは売春だよ。そんなのダメじゃない！」
「ダメってね、けっこう常識でしょ。ま、ドツボにはまってくヤツの数は知れてるけどな」
「そうか……悲しいことだな。私はその子たちのことも、きみたちのことも心配だよ」
「はいはい、オレら、ガチで大丈夫。心配御無用。おい、そろそろ行こうぜ」

こんなに進歩した社会でも、いろいろな難しさや危機を抱えている若者たちがいる。一見元気に見える子たちも、紙一重で同じ現実には生きている。しつかり気持ちを入れて、神さまがどれだけ一人一人のことを大切に思っているか伝えていかなければ……若者たちのところへ出かけて、彼らのニーズにしっかりと向き合おう。
さて、次は私の仲間達を探さないと。

Benvenuto Don Bosco!

ようこそ、ドン・ボスコ！

ドン・ボスコ、あなたは晩年、サクロクオーレ大聖堂の扶助者聖母にささげられた祭壇で涙を流しながらミサをささげました。
イエスのように「すべては成し遂げられた」と思われたのですか。けれどもあなたは亡くなる三年前、
世界に広がるサレジオ家族の事業の夢を見たではありませんか。
父ドン・ボスコ、あなたは今、すべての涙をぬぐい、
見果てぬ夢の続きを見るために、世界中を巡礼しています。
ようこそ、ドン・ボスコ！
あなたがごらんになった高い山は富士山です。
あの山の二合目には扶助者聖母のご像と祭壇もあります。
あなたが夢に見た日本に、最初のサレジオの宣教団長として一歩を踏み入れたのは、「ドン・ボスコをごらん」と叫んだ母の手で高くかかげられた小さな男の子、チマッティ神父です。その時から、サレジオの家族はこんなに広がりました。
ベッキ村の貧しい農家に生まれ、
どんな限界も乗り越えて若者の父となったドン・ボスコ、
日本の若者、特に危険にさらされている若者を助けてください。
そして若者に命をささげるサレジオ家族を祝福し、
あなたの夢の続きをいつまでも信じさせてください。

サレジオ会日本管区長
アルド・チブリアニ神父



げんこつはいけない。

柔和と愛をもつて



ベッキ村のドン・ボスコ記念大聖堂

この子どもたちの友達になるのだよ

貧しい農家の少年が、のちに

「青少年の友」と呼ばれるようになる大きな転機となったのは、

9歳の時に見た不思議な「夢」でした。

ベッキ村——イタリア北部のピエモンテの山々に抱かれたこの村で、今から約200年前の1815年、ヨハネ・ボスコは生まれました。父フランシスコはヨハネが2歳のころ亡くなり、母マルゲリタ、兄アントニオとヨセフと暮らす一家は、貧しいながら力を合わせて畑でよく働きました。ヨハネは9歳になると、冬の間だけ近くの村の学校に通い、読み書きを習いました。兄が畑仕事の忙しい

夏の間は勉強することをゆるさなかったのです。

人生を開いた「夢」

そのころ、ヨハネは人生を大きく開かせる「夢」を見ました。『自叙伝』で次のように語っています。

“その夢は一生涯にわたって私の魂に深く刻みつけられている。大勢の子

どもたちが広場で遊んでいた。ある子どもたちはふざけ、乱暴な言葉を言い放っていたので、私は飛び込んでいき、

げんこつや言葉で黙らせようとした。

その時、尊い身なりの気高い方が現れ、私の名前を呼んでこう言われた。

「げんこつはいけない。おだやかな心と愛をもって、この子どもたちの友達になりなさい。罪のみにくさと徳の尊さを、この子たちにすぐ教えなさい」

「あなたはどなたですか？」

「きみに女の先生をつけてあげよう。

私は、きみのお母さんが、日に三度あ

いさつするように教えたあの女の方の息子だ。私の名前なら、私の母に尋ねなさい」

この方のそばに、太陽のように輝くマントを着た厳かな姿の女の方がおられるのを見た。

「ごらんなさい！」と女の方は言われた。あの子どもたちは消え去り、その代わりに数多くの小ヤギ、犬、猫、熊などの動物がいた。

「これがあなたの働く場所です。謙遜

で、強く、たくましい者となりなさい。

今日にすることを、私の子どもたちの

ためにしてほしいのです」

すると、どう猛な動物たちは小羊たちに変わり、あの男の方と女の方の周りを大喜びで跳びながら走ったりしていた。夢の中で、私は泣き出してしまった。何を意味するのかわからなかったのだ。女の方は私の頭の上に手を置き、こう言われた。「時がくれば、すべてがわかるでしょう」

小さな曲芸師

この夢は、ヨハネの人生の大きな冒険、彼の使命を表していたのです。さっそくヨハネは自らオラトリオ（祈りと活動の場）のようなものを始めました。友人たちからはとても好かれ、同時に一目置かれていました。小がらでしたが、年上の仲間が恐れるだけの腕力と度胸があったのです。とくにヨハネの「講談」には、子どもから大人まで夢中になりました。青空の下、ミサの説教や学校で聞いた話を抜群の記憶力で語り、冬は家畜小屋に集まって歴史物語などを朗読して聞かせました。

近くの村で市が立つ日には曲芸師の

芸を観察しに出かけ、練習を重ねました。手品や宙返り、逆立ち、綱渡りをしながら踊ることもお手のものでした。ヨハネが観客に求めた「見物料」は、神様と聖母マリアへの祈りを唱え、一緒に聖歌を歌い、神様の話を語り聞かせることでした。

「喜びの会」をつくる

16歳の時、遅れてキエリの中学校に入ったヨハネでしたが、持ち前の記憶力と熱意、リーダーの資質、手品や曲芸の技、語る力、思いやりの心によって、すぐに仲間や教師、不良少年たちからも慕われるようになりました。学費をつくるためにさまざまな職につき、技術を身につけました。大工、仕立て、鍛冶、パン焼き、靴職人、給仕、家庭教師など、やがてドン・ボスコが始める職業学校で役立つことになります。

ヨハネは、一緒にいたいという仲間たちと「喜びの会」というクラブを結成しました。「喜び、快活さ」はドン・ボスコの一生を貫く生活信条となります。





一生涯よい人であるよう 全力を尽くすことを 神様に約束しなさい

ドン・ボスコに、祈ること、すべてを与え尽くすこと、
親の心で愛情をそそぐことを教えたのは、母マルゲリタでした。

母マルゲリタは夫に先立たれた時、29歳でした。その手は家事と畑仕事で荒れていましたが、その手で子どもたちを優しくなでることもありました。マルゲリタは母親のように相手を安心させる楽しさと、父親のように落ち着いた強さを調和させ、使い分けていました。子どもたちは、母が「だめ」と言ったらだめであることを知っていました。気まぐれに意見を変えるような人ではなかったのです。

祈りを教えてくれたのは母

「神様はお前たちを見ておいでだよ」とは、彼女がたびたび口にした言葉の一つです。しかし、彼女が教えたのは憲兵のような神ではありません。夜空に星が輝く時は、「世界を造り、空にたくさん星を置かれたのは神様よ」、野原が花盛りになると、「神様は何と美しいものを作ってくださったんだらうね」とつぶやくのでした。嵐が作物

母からの諭し

10歳の復活祭の日、ヨハネは教会で初聖体を受けました。母は彼に次のような言葉を繰り返して聞かせました。
「今日はお前にとってとても大事な日だよ。神様がお前の心を捕らえて、ご自分のものになさったのだからね。だから、一生涯よい人であるよう全力を尽くすことを神様に約束しなさい。これからはしばしば聖体をいただきなさい。ゆるしの秘跡を受ける時はいつもすべてを打ち明けなさい。そしていつも従順でいなさい。カテキズム（神様のことに関する教え）や説教には喜んで耳を傾けるのですよ。特に言っておきたいのは、悪い話をする人たちをベストのように避けること。いいわね」

身寄りのない少年たちの母となる

近所の家で重病人が出ると、人びとはマルゲリタを呼びに来ました。彼女が決して断らず、喜んで手助けしてくれることを知っていたからです。母は息子たちのうち一人を起こして、次のように言うのでした。「さあ、愛の行いをしにいきましょう」
帰ると言いだすことはありませんでした。それ以来、マルゲリタは決して家に帰ると言いだすことはありませんでした。

壁にかかった十字架を見上げて

マルゲリタはかつてヨハネにしたように、少年たちに祈りを教え、正直な生き方や仕事のこと、信仰のことについて短い話を語り聞かせたのでした。

イタリアの戦乱は、少年たちにも影響を与えていました。寄宿舎のまわりでも不良少年たちが凶器を持って戦争のまねことを繰り返して、建物も壊され、死傷者が出るほどの荒れようでした。マンマ・マルゲリタの菜園も、ことごとく踏みつぶされてしまいました。

少年たちが寝に行ったあと、彼女の前にはいつものように破れたシャツや穴の開いた靴下が山のように積まれていました。

「ヨハネ、私はもう疲れたよ。ベッキ村に帰らせておくれ。朝から晩まで老体に鞭打って働いても、あの子たちは全部ダメにしてしまう。ほんとうにこれ以上はやっていけないよ」

ドン・ボスコは、何を言っても母を慰めることができないと感じ、壁にか



司祭となったドン・ボスコは、少年たちのために休みなく働きました。31歳の時、過労と病でついに倒れ、母と兄のいるベッキ村に戻って数か月間の休養をとりました。無事に健康を回復した彼は、ある晩、母に言いました。
「私と一緒に来て、少しの間、暮らしてみてくださいませんか？ じつはヴァルドッコに部屋を3つ借りて、見捨てられた子どもたちのために施設を始めようつもりです。母さんは前に、もし私が金持ちの司祭になったら私の家には絶対に来ないと言いましたね。見てのとおり、私は借金を抱えた貧しい神父です。それにあの地域は司祭が一人です。暮らすには危険なんです」
母マルゲリタは58歳で、ベッキで孫たちと幸せに暮らしていました。ドン・ボスコは優しく言いました。
「どうか私の子どもたちの母親になってください」
「それが主のみ旨だとお前が言うなら喜んで行くよ」
こうしてマルゲリタはトリノへ行き、身寄りのない少年たちの母（マンマ）となりました。

少年たちをドン・ボスコに
結びつけるものは、
一日のいかなる瞬間をも
子どもたちのために使おうとする
彼の愛情でした。

路上の少年たちと出会う

1841年、ヨハネは25歳で司祭になり、ドン・ボスコ（ボスコ神父）の意味）と呼ばれるようになりました。トリノの司祭研修学院でドン・ボスコは、疲れを知らぬ活動家のカファッソ神父に出会いました。彼は「街へ出ていき、よく観察しなさい」と勧めました。

ドン・ボスコは街を歩きまわり、子どもたちが打ちひしがれ、犯罪寸前の状態で路上をうろついているのを見て、深い痛みを感じました。皆遠くの地方から来た者ばかりで、失業した家の子どもたちや、その日暮らしに精一杯の子どもたちでした。少しでも生活を楽にするために賭けごとをする若者たちもいました。ドン・ボスコが近寄ろうとすると、彼らは不信と軽蔑の表情を見せながら遠ざかっていきます。田舎

る場所をつくろうと思い立ちました。友と一緒に暮らし、活動し、若者たちが毎日でも来られるような場所を思い描いていました。

司祭になったこの年の12月、ドン・ボスコは、両親を亡くしトリノに働きに来たガレッリ少年と出会いました。ドン・ボスコはすぐにうち解けて、次は友達を連れておいでと誘うと、9人の少年たちがやってきました。これが、ドン・ボスコのオラトリオの始まりといわれています。

あつという間にオラトリオは数百人の若者たちの集団にふくれあがりました。ほかの若い神父たちも手伝って、子どもたちにゆるしの秘跡を授け、援助の手を伸べ、言葉を交わしました。

もしパンを

ひと切れでも持っているなら

少年たちをドン・ボスコに結びつけるものは、彼の心のこもった深い愛情です。一日のいかなる瞬間をも子どもたちのために使おうとするドン・ボスコの愛情を、彼らは実感していました。



思いっきり遊び、跳びはね、はしゃぎなさい。 罪を犯さないことだけが大事なのだから

若者と共にいる

の子どもたちとは違って、彼らは話や曲芸などに興味はありません。彼らこそ少年の時に夢で見た「どう猛な動物たち」のようでした。

子どもたちのために泣く神父

ある日、カファッソ神父はドン・ボスコを刑務所の囚人慰問に誘いました。格子の向こうに大勢の少年たちがいるのを見た時のことを、ドン・ボスコは次のように語っています。

「若者たちが健康で、体格もよく、才能もあるのにもかかわらず、その場所でも何事もなく、虫にさされ、精神的にも物質的にも飢えていいるありさまを見て、私は思わず戦慄を覚えた」

ドン・ボスコはその後も刑務所を訪れ、神様の教えについて話すだけでなく、一対一で彼らと話し合うように努めました。はじめ彼らの拒絶反応はさまざま、ひどい暴言にも耐えなければなりません。でも少しずつ不信をやわらげ、友人同士として話し合えるようになりました。こうしてこの

ドン・ボスコは店にも、作業場にも来てくれました。彼らにとってドン・ボスコに会い、言葉を交わすことは、元気づけられるひとときでした。

多く若者が耳にし、一生涯の間、大事な宝のように思い出すドン・ボスコの言葉の一つは、

「私にとって君はほんとうに大切な人だから、もし私がパンのひと切れでも持っているなら、君と半分にするつもりだよ」

良いことを勧め、励ます

ドン・ボスコの若者との接し方は、快活なものでした。若者たちには

「思いっきり遊び、跳びはね、はしゃぎなさい。罪を犯さないことだけが大事なのだから」

と呼びかけています。自由な雰囲気、思う存分走ることのできるグラウンドは、ドン・ボスコにとって理想的な環境でした。

だれかをとがめる必要がある場合、当人に気まずい思いをさせないため、

若者たちの哀れな生い立ち、屈辱的な境遇、彼らを凶暴にさせる怒りがわかるようになってきました。

「この子どもたちが刑務所の外に、自分たちの面倒を見てくれる友を一人でももっているなら、自分たちの世話をし、祝祭日には教会に連れていってくれる友人が一人でもいるなら、二度と刑務所には戻らないのではないだろうか」

ドン・ボスコは日を追うごとに彼らと親しくなっていました。しかし、すぐに彼らが刑務所に戻ってしまうと、すべては台無しでした。ドン・ボスコはある日、ついに泣き出しました。

「あの神父はなぜ泣くのか」とだれかが尋ねます。

「おれたちを愛してくれるからさ、おれがこんなところに入っているのを見たら、おふくろだって泣くに違いない」

オラトリオの始まり

ドン・ボスコは、家族のない子どもたちが友人を見いだせる場所、刑務所を出た若者たちが支えを得られ

人前ととがめることはしませんでした。ドン・ボスコは、いつも子どもたちを見守り、彼らが悪を行うことのないようにしました。しかし、見張っていたわけではなく、良いことを勧め、励ましたのです。教育者が子どもたちの喜びに加わることによって、自然に喜びが増してくるということを、ドン・ボスコは見抜いていました。



西暦		年齢	【世界の出来事】	【日本の出来事】
			1814年●スチーブンソンが蒸気機関車を発明	
1815年	8月16日		北イタリア、カステルスオヴォのベッキ村で生まれる。	1815年●第11代将軍 徳川家斉の時代
1817年	2		父を失う。家庭はさらに貧しくなる。	
1824年	9		将来の教育者への道を暗示する夢を見る。	
			1821年●ナポレオン没	1825年●幕府が外国船打払令を発令
			1830年●フランス7月革命	
			1831年●マツイーニが青年イタリア党結成	
1831～35年	16～20		キエリで下宿し、働きながら中学・高校に通う。	
1835～41年	20～25		キエリの神学校で学ぶ。	1835年●モールスが電信機を発明
1841年	25	6月5日	司祭に叙階され、「ドン・ボスコ」と呼ばれるようになる。	
		26	12月8日 トリノでガレツリ少年と出会う。(オラトリオの始まり)	
1843年	28		働く少年たちのために夜間教室を始める。	
1847年	32		貧しい青少年のための寮を始める。	
1853年	38		職業学校を始める。	1848年●マルクス・エンゲルスの共産党宣言 1853年●クリミア戦争(～56年) 1853年●ペリーが浦賀に来る
1854年	39		将来の「サレジオ会」の最初の集会。	
1858年	43		ローマで教皇ピオ9世に修道会の計画を打ち明ける。	1858年●幕府がアメリカ、フランスなど5か国と通商条約を結ぶ
1859年	44		サレジオ会を正式に創立する。	1859年●イタリア統一戦争(～60年) 1859年●初外国宣教会が来日
1860年	45		教え子ミケレ・ルアが最初のサレジオ会司祭となる。	
			1861年●イタリア王国成立／アメリカ南北戦争(～65年) 1862年●ローマで日本26聖人殉教者の列聖 1863年●リンカーン奴隷解放宣言	
			1865年●長崎の大浦天主堂内で浦上の信徒が信仰を表す(信徒発見) 1867年●江戸幕府が終わる 1868年●明治維新が始まる／維新政府がキリスト教を禁止	
1868年	53		トリノの扶助者聖母大聖堂を完成し、献堂式を行う。	
1872年	57		サレジオ会の姉妹会「扶助者聖母会」(サレジアン・シスターズ)を設立する。	1873年●禁教令が解かれる
1874年	59		サレジオ会の会憲が承認され、教皇直轄の修道会となる。	
1875年	60		最初の宣教師たちを派遣する。(アルゼンチンへ)	
1876年	61		サレジオ協力者会(サレジアニ・コオペラトーリ)が教会より承認される。	
1877年	62		サレジアン・シスターズの最初の宣教師団が出発する。 『ボレッティーノ・サレジアーノ』(サレジオ会会報)を創刊する。	
			1879年●エジソンが白熱電灯を発明	
1885年	70		サレジオ会の将来の発展を夢に見る。そのなかに日本も現れる。	
1888年	72	1月31日	ドン・ボスコ帰天。	
			1879年●エジソンが白熱電灯を発明 1929年●世界経済恐慌はじまる 1931年●満州事変 1933年●ナチスのユダヤ人迫害が始まる	
1926年	●	チマッティ神父が8人のサレジオ会員とともに来日。		1926年●昭和天皇が即位
1929年	●	6人のサレジアン・シスターズ会員が来日。		
			1929年●世界経済恐慌はじまる 1931年●満州事変 1933年●ナチスのユダヤ人迫害が始まる	
1934年	●	ドン・ボスコ列聖。		1933年●国際連盟を脱退 1936年●二・二六事件
1937年	●	カヴェオリ神父とチマッティ神父のもと宮崎カリタス修道女会(現イエスのカリタス修道女会)創立。		1937年●日中戦争(～45年) 1938年●国家総動員法



少年時代をすごしたベッキ村の家



ドン・ボスコが始めた印刷所



最初の宣教師たち (1875年)



天に召された直後のドン・ボスコ (1888年)

集まる少年たちと協力者たち

ドン・ボスコは街に出かけて少年たちと出会い、助けを必要とする者には自分の持てるものを惜しみなく注ぎました。働いていて学校に行けない少年のために夜間教室を始め、身寄りのない少年のために寮を始めました。職業学校は靴の製造、洋服の仕立てから始まり、製本所、大作業所、印刷所をかまえるまでになりました。ドン・ボスコ自身も先生となって若いころ働いて覚えたことを教えましたが、少年たちの親方たちが協力して先生になってくれました。

ドン・ボスコは、少年たちの生活面だけでなく、魂の救い、信仰を育てることを何よりも大切にしました。何人もの司祭たちがゆるしの秘跡や信仰教育を引き受け、信徒たちも少年たちの生活の世話や寄付の協力をもってしました。

給料はパンと仕事と天国

オラトリオに集まる少年たちは、600人を超えていました。ドン・ボスコは将来共に働くサレジオ会員を得るために、若者たちに日々「私と一緒に若者のために働いてくれないか。私

に百人の司祭と百人の神学生がいたら、皆に仕事を頼めるのに。世界中に行くことができるかもしれないよ」などと言ったものです。

ドン・ボスコからオラトリオに来るよう声をかけられた神父が「給料はどれくらいくれるんだい？」と尋ねると、ドン・ボスコはこう答えました。

「パンと仕事と天国だよ。お金はあまり貯まらないだろうが、睡眠はほしただけ貯めておけるよ」

ドン・ボスコは疲れた仲間にもいつも「天国で休もう」と繰り返しました。

ドン・ボスコの精神は世界へ

1859年12月18日、ドン・ボスコ

若者の心を

わたしにお与えください

あとは取り去ってください

若者の魂を救うために

若者たちのためなら、どんな犠牲も惜しまない。

ドン・ボスコの思いは

世界中の「サレジオ家族」に受け継がれていきます。

と17人の教え子たちが集まり、青少年の魂の救いのために生涯をささげる「サレジオ会」を創立することを決めました。このように名付けたのは、「聖フランシスコ・サレジオの穏やかなやさしさをもって、人々をイエス・キリストへ引き寄せる」ためです。

ドン・ボスコの精神は、「共にいること」(アシステンツァ)や「予防教育法」に刻まれ、少女たちのために働くサレジアン・シスターズをはじめ、現在28のグループ、40万人以上の修道者・信徒・協力者からなる「サレジオ家族」に受け継がれています。



聖母ハネ・ボスコ聖遺物巡礼記念特別号 No.6 ドン・ボスコの心

Don Bosco Photo Gallery

ドン・ボスコ写真館



1870年 トリノにて。最初のサレジオ会員たちと



1865-68年 50歳の頃。トリノにて



1880年 トリノにて



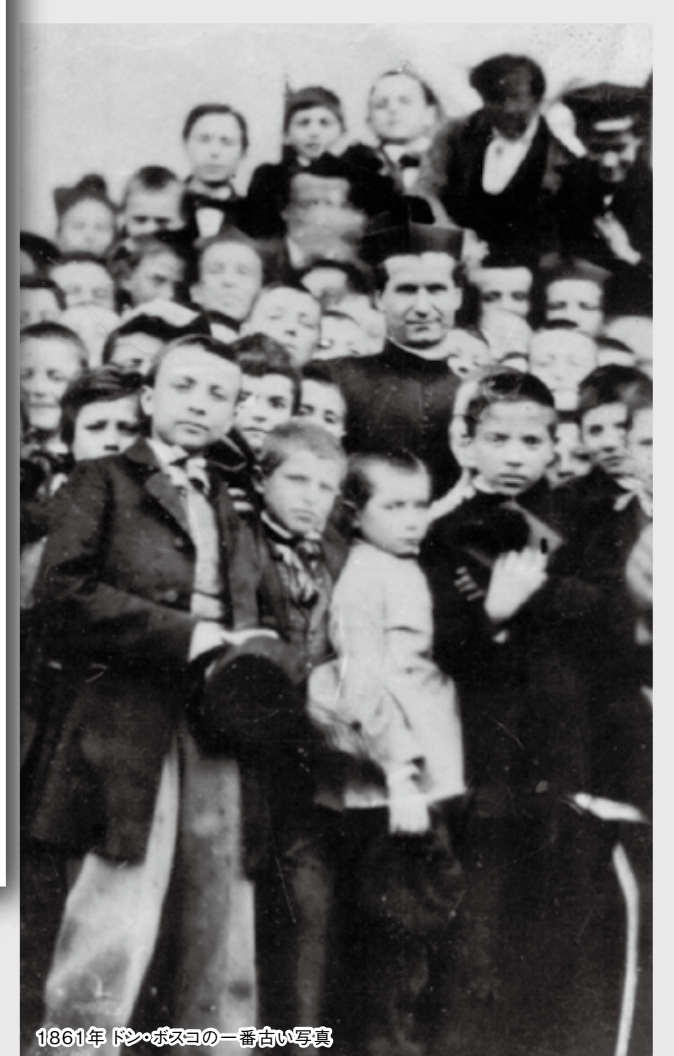
1875年 トリノにて。最初の宣教団と



1886年3月、70歳の頃



1861年 トリノにて告解を聴く。告白しているのは後の総長パウロ・アルベラ



1861年 ドン・ボスコの一番古い写真



1867年 ローマにて。祝福を与えるドン・ボスコ



青少年の友と呼ばれるドン・ボスコ。じゃあ、ドン・ボスコが現代のワカモノたちと出会ったなら？あなたならどんなことをしたい？話したい？今を生きるワカモノ5人が真剣ぶっちゃけトークしてくれました。

A・B：30代 男性 社会人
C：20代 男性 社会人 教会学校リーダー
D・E：20代 女性 学生 教会学校リーダー

A 僕は一緒に酒飲んで、腹を割っていっぱい話したい。特に人と関わっていく上で、やさしさを保つための秘訣を教えて欲しいな。
C そうですね。僕も鍋囲んで一緒に話したい。一緒に活動して、一緒に食べて飲む。家庭的雰囲気こそドン・ボスコにぴったりですから。
E 私は子どもに帰ってドン・ボスコのオラトリオに行ってみたいな。同時に教会学校のリーダーとしては、子どもたちの抱える問題にどのように向き合うか教えて欲しい。特に中高生は難しいから。
D 私は「将来どんな男性と結婚したらいいですか」とか聞きたいな。
E あるかも。いろんな男の子見てるしね。
B 「ドン・ボスコは恋をしたことがあるのですか？」とかも聞きたいね。
A 確かに。
B ベッキ村に好きな女の子いたはずだけどねえ。就職の問題も相談したいかな。仕事を選ぶということは一生の中で大きな決断ですから。ドン・ボスコも人生のなかでいろいろな決断をしてきたと思うけど、どのように決めてき

たのかとか。
B 「何の仕事したらいいですか？」って相談したら「一緒に働こう」って言われるんじゃないかな。
全あははは（笑）。

A そうね、「天国と仕事とパンは保障するぞ」ってね。
C 僕はもしドン・ボスコがこの日本にいたら一体何を始めるだろうか興味があります。同じように子どもたちのために何かやるのか、いや、それとも別の弱者、たとえば高齢者に目を向けたのかいろいろ想像しますね。いずれにせよ、すごい情熱があったと思います。その情熱はどこからくるのか、どんなヴィジョンをもっていたのか聞いてみたいですな。

B エネルギッシュなイメージがある。「さあ喜ぼう！」って。
C そりゃ松岡修造ですね。青春ドラマみたいです。全あははは（笑）。

B でもこっちもその気になってしまう感じ。人を喜ばせる天才というイメージがある。いろんなことを一緒にやってみたいな。どんなひらめきがあるんだろうか、見て学んでみたい。確かになんであんなにいろいろできたんだろう。「自分は関係ないよ」とも言えただろうけど、そうじゃない。

A しかもお母さん（マンマ・マルゲリータ）まで巻き込んで。

ドン・ボスコとトーク&アンケート

何する？・話す？

What would you do?
What would you talk about?

マジックを教えてもらいたい。
（高校生・17歳・男）

バーベキュー、アルティメット、
チーム対抗のゲーム （大学生・19歳・男）

一緒にワインを飲みたいと言いたいところですが・・・ドン・ボスコのごミサにあずかってみたいです。（お説教も聞けるし）（主婦・50歳・女）

とりあえずジャンケン。
勝った方が好きなことを一緒にする。
（中学生・13歳・男）

一緒に遊びたい。祈りたい。勉強したい。
（高校生・16歳・男）

・世界旅行。
・今の宣教師の仕事ぶりはどうですか？
会のカリスマはまだ生きてますか？と尋ねたい。
・現代の日本の若者たちにドン・ボスコはどう接するのだろう。
・夜まわり先生をやってみてほしい。
（大学院生・27歳・女）

一緒にミサを捧げたい。
青少年司牧活動をしたい。
（司祭・37歳・男）

今の日本の子どもたちが置かれている状況について、どう思うか尋ねたい。
ドン・ボスコと一緒に、教会学校を行いたい。
（介護職員・33歳・男）

かみさまは初めからいたというけれど、
かみさまを産んだお母さんはだれですか？
（幼稚園生・5歳・男）

・一緒にドッジボール
・子どものかかわり方について教えてほしい。
（OL・26歳・女）

一緒に音楽を奏でて、心の一体感を感じたい
（32歳・女）

・やっぱり腕相撲大会です！（スポーツ全般）
・バンドを組んでみたい。
（高校生・17歳・男）

ゆるしの秘跡を受けたい。
（修道士・43歳・男）

・林間学校での月の輪熊調査（共存と言うことについて一緒に考えたい）
・気分転換の方法や地球の未来について話したい。
・苦難の乗り越え方。（「もうダメだ」という状況でも諦めずに自分の道を進むためには、どんなことを考えるのか尋ねたい）（35歳・女）

B 子どもたちの世話のため連れてこられちゃった。
C そういえば、Dはなんで日曜学校のリーダーやってんの？
D 連れてこられちゃった。
E 私も自然な流れで当たり前のようにやっていったな。
A 巻き込まれちゃった感じ。
D それだよ。
B ドン・ボスコに巻き込まれちゃったんだよ。
A ドン・ボスコは、大人が世界の中心だった時代に、青少年たちに目を向けた。世界を担っていくのは子どもたちだから、子どもたちが生き生きとしていることが大切だと訴えたんだね。だから今の時代にもドン・ボスコは必要だと思う。というのは、家庭の中で子どもが孤立している感じがする。それに対して「教会に集まろう」と言っても難しいでしょ。ドン・ボスコだったら今の時代にどうするのだろうか？生きにくさを感じ抱えている子どもたちを集めることができるのかな。
D 集めるという発想はもう難しいのかなあ。
B いや、それでも集まる場所には人は集まるよ。そっだな、いまお笑いブームだから、ドン・ボスコだったらお笑いのチームを作るかもしれない。ドン・ボスコ新喜劇で巡業とかして。そこで客寄せして、お代はマリアさまの祈り！全あはは、ありえる！
A うん、ドン・ボスコは若者が集まるため、あるいは人とながるという意味でも何でも

やっていたと思う。ツイッターもやってたかも。
B 「寄付をくださいー！」というつぶやきを書くじゃないかな。
全あははは（笑）。
C インターネットの前でフォローしまくっているドン・ボスコか。
D かといって、一日中コンピュータの前に座っているドン・ボスコも想像できないなあ。
E やっぱり、じかに人に触れるドン・ボスコが想像しやすい。
D そうですね。それが基本と思うよね。
B 確かにドン・ボスコにみんながついていきたくて思ったのは、やはり若い頃からドン・ボスコと一緒にいたからだと思うな。
A 同じ経験を共有して、何か同じものを持っているという一体感かな。それでつながっているという感覚が生まれ、それは裏切らないものだと思うよ。
C その意味では、僕はドン・ボスコに「ありがとう」とまづ言いたいですね。たまたまサレジオ会の学校に通ったきっかけで、洗礼も受けたし、いろんな活動にも参加させてもらっている。ドン・ボスコを通して神さまに関わっていることを感じるな。
E 「私はあなたのために、生き、学び、そして死ぬ覚悟さえある」というドン・ボスコの言葉がとても好きです。私もそういうふうな思いを持ちながら子どもたちのために生きたいですね。
A うーん、いいまとめかただね！
全あははは（笑）。

子どもたちと接するその場に一緒に連れていって欲しい。子どもたちと何を話しているのか、何をしているのか、何を感じているのか全てを共有したいです。（ミュージシャン・30歳・女）

テーブルサッカーを本気で勝負したいです。（司祭・30代・男）

・一番の思い出は何ですか？
・どんな子どもだったのかという話をしてほしい。
（小学生・10歳・女）

綱渡りをさせてみたい
（中学生・13歳・男）

・今の世界の状況についてしゃべりたい。
・世界が平和になるような作戦を考える!!
（中学生・13歳・女）

大人と子どもの幸せの違いってなんですか？
（高校生・16歳・男）

今、ドン・ボスコに会ったら、このインターネットの時代をどのようにお考えになるか、お聞きしたいのです。グーテンベルグ以降の情報通信の大革命といわれているこの時代の光と影を信仰の目からどのように見るかを知りたいです。（77歳・男）

昨今の日本における教育問題について話し合いたい。
（大学生・20歳・男）

・どんな動物が好きですか？
・いっしょに鬼ごっこをして遊びたい。
（小学生・8歳・女）

・洗礼名なので、いつも守ってもらっていることへの感謝の気持ちを言いたい。
・グリージョの散歩を一緒にしながら、ロザリオ。
（会社員・31歳・男）

・なんで神父様になりたいと思ったのか？
・途中で神父様をやめようと思ったことはあるのか？
（中学生・12歳・女）

子どもたちの学びについて話しをし、尋ねたい。
（31歳・女）

一緒に遊びたい!!
子どもと一緒に!!
（保育士・29歳・女）

・子どもたちの現代の遊び（DSとか）、ネットについてどう思うか聞いてみたい。
・日曜日に子どもミサをしてほしい。どんな説教をするか興味がある。
（修道女・20代・女）

ヨーロッパでの「日本ブーム」

ドン・ボスコは日本のことを知っていたのでしょうか？ 答えは、知っていただけでなく、日本に対して深い関心を寄せていました。

ドン・ボスコが生まれたころの日本はまだ鎖国中でしたが、彼が若者のための事業を手がけてサレジオ会を創立したころ、日本は200年以上にわたる鎖国政策に終止符を打ち、明治維新によって近代国家に向けて、激動の時代を歩み始めていました。

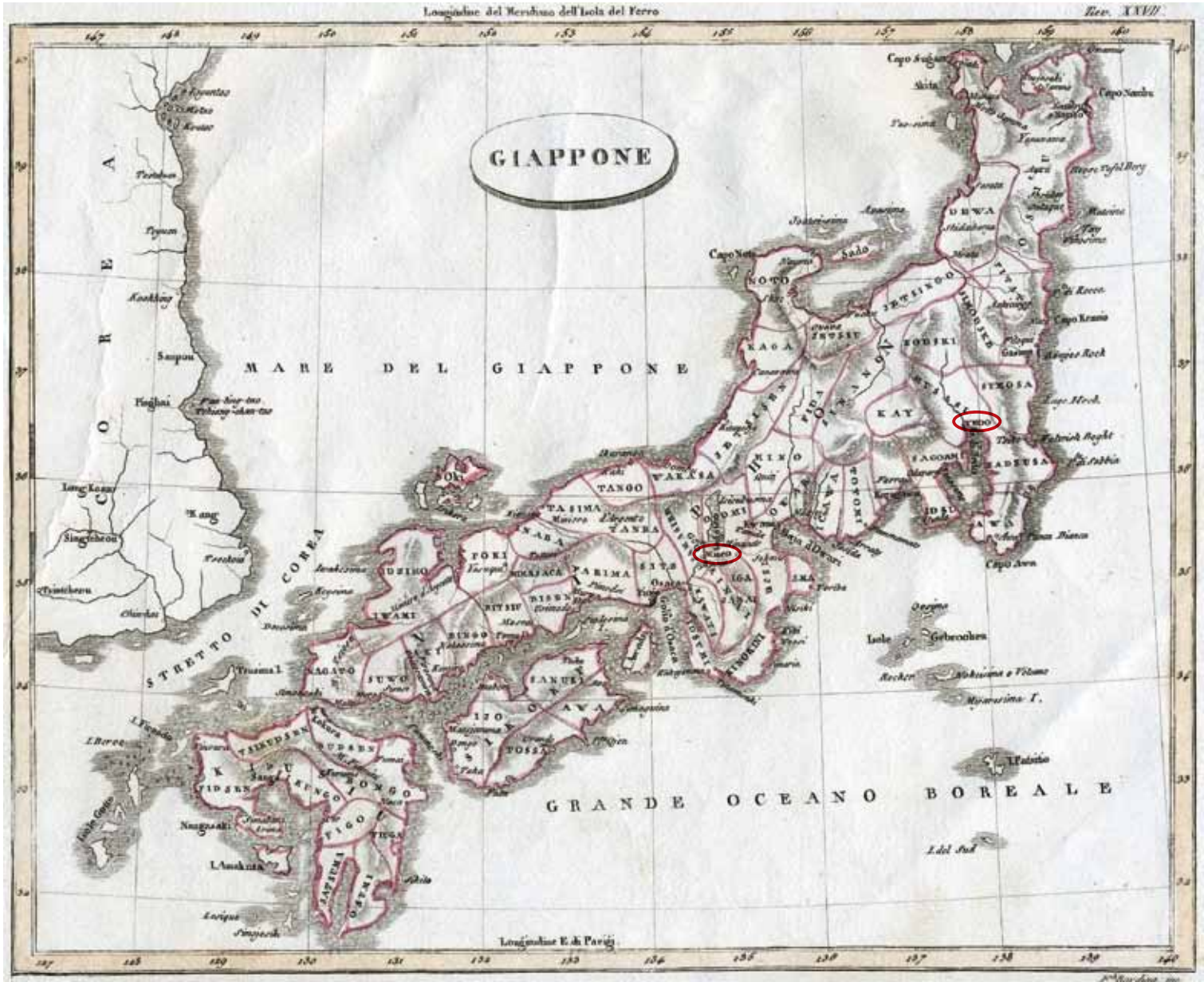
1865年、江戸時代のキリスト教禁教令のもと250年間にわたり潜伏して信仰を守り続けたクリシタンたちが、長崎の大浦天主堂で発見されたというニュースは、当時のヨーロッパを大変驚かせました。

その3年前の1862年には、ローマで日本26聖人殉教者の列聖式が盛大に執り行われました。ドン・ボスコもトリノのオラトリオでその出来事について生徒たちに話しています。また、1867年、ローマで日本205殉教者の列福式が行われた時、参加できなかったドン・ボスコは、自分の代わりに2人のサレジオ会員を祝いに送っています。

このように、ヨーロッパでは「日本ブーム」が巻

1800年代にイタリアで作られた日本地図。

ドン・ボスコもこのような地図を目にしただろう。「Miaco」「Yedo」の文字が見える。



き起こっていました。パリ外国宣教会が日本で宣教活動を再開したのに続き、多くの教育修道会がヨーロッパから日本の地に渡り、ミッションスクールを設立して日本の人びとの教育に力を注ぐことになったのです。ドン・ボスコも、日本について大きな関心を寄せていたでしょう。

ドン・ボスコの著書に書かれた「メアコ」

じつは、それ以前の1848年、ドン・ボスコは若者のために『教会史』を執筆しましたが、その中ですでに日本のキリシタンについて何ページもあてています。そこには太閤秀吉や高山右近のことなど、キリシタン迫害のことが書かれています。その出典は、キリシタン時代の出版物や、ヨーロッパに出口っていた本でした。

1871年に『教会史』の改訂版を出版した時には、



1600年代の日本地図。
「Meaco」の文字が見える。



日本26聖人の一人ひとりの略伝を加えました。その本のなかで「メアコ」、すなわち日本の「都」という言葉が8回登場しています。キリシタン時代や当時の地図を見ると、日本の京都あたりに「Miaco」または「Meaco」と書かれているのがわかります。現在の「京都」や「東京」という名が日本で使われるようになったのは、1868年の明治の行政改革以降ですから、ヨーロッパでは新しい地名が普及したのは何年か後だったのでしょうか。ドン・ボスコが言う「メアコ」は日本の首都のことと考えられます。

ドン・ボスコが夢で見た日本

しかし、ドン・ボスコと日本の関わりについては、もっと大事な話をしなければなりません。

1875年に南アメリカにサレジオ会員を派遣して以来、ドン・ボスコは世を去るまでの13年間に12回、宣教師たちを海外へ派遣しました。彼が見た「夢」にはとても興味深い話がいくつもあるのですが、1885年、亡くなる3年前に見たある夢の中で、サレジオ会の世界的な広がりを見えています。

ドン・ボスコは夢の中で、案内者と一緒に空を飛んで世界一周をしました。次々といろいろな国や民族、町の名前が現れ、南アメリカ、アフリカ、オーストラリア、ベルシャ、インド、中国などが出てきました。そして、北京の次に「果てしない海のそばにそびえ立つ高い山があり、そこに『メアコ』という町を見た」

そして「たくさんさんの若者がサレジオ会員と一緒に遊んでいるのを見た」と語っています。つまり、ドン・ボスコは富士山と「メアコ」がある国、日本までサレジオ会の事業が広まると予見したわけです。

ドン・ボスコ、日本へ

日本へのサレジオ会の派遣は、ドン・ボスコの死後、サレジオ会の宣教活動50周年記念事業として1925年に決定されました。そして翌年2月8日、チマッティ神父を団長とする9人の会員が門司港に上陸し、2月16日に目的地の宮崎に到着しました。

日本のサレジオ会員がドン・ボスコの夢に日本が登場していたと気がついたのは、1940年頃のことです。1月31日の総長宛ての手紙に、チマッティ神父はその発見を説明しています。

このチマッティ神父は、幼い時、ドン・ボスコがその町を訪れた際、母に抱かれて「ドン・ボスコを「ごらん」と言われたことを一生のあいだ覚えていました。そして、ドン・ボスコにならうことを生涯の生き方の理想としました。今、「日本のドン・ボスコ」と言われている彼は、ドン・ボスコの精神を遺産として私たちに残したのです。

今回、日本を訪れるドン・ボスコは、喜んでその忠実な弟子であったチマッティ神父に出会おうでしょう。そして、チマッティ神父は、私たち一人ひとりに、「ドン・ボスコを「ごらん」と言ってくださいなのです。」



つながる・ひろがる サレジオ家族

サレジオ家族 *Salesian Family*

世界 **130** 以上の国で、**28** グループ、**40** 万人以上のサレジオ家族が学校、教会、社会生活のさまざまな場面で若者たちのために奉仕しています。

ドン・ボスコの精神とスタイルに影響を受けて生まれた修道者と信徒・協力者によるグループを、サレジオ家族（サレジアンファミリー）と呼んでいます。

サレジオ会のほか、世界に 27 のグループがあり、修道者・信徒などさまざまな立場、職業、社会生活を送る 40 万人以上のメンバーが、ドン・ボスコの精神を共有して、若者たちのために奉仕しています。

日本のサレジオ家族

日本では **7** グループのサレジオ家族が活動しています。

サレジオ会

Salesians of Don Bosco

世界の会員数：16,000 人
日本の会員数：110 人（14 支部）

サレジオ会は青少年のために働く男子修道会です。1859 年、ドン・ボスコにより創立。日本では、教会・ユースセンター、学校教育、児童福祉、出版、滞日外国人の支援、国際ボランティアなどの事業に携わり、とくに青少年教育とキリストの愛を伝えるために献身しています。

サレジアニ・コオペラトーリ

Association of the Salesian Co-operators

世界の会員数：27,000 人
日本の会員数：141 人（12 支部）

サレジアニ・コオペラトーリは、サレジオ会やサレジアン・シスターズの指導を受けながら協働者として生きる一般信徒の会です。1876 年「善良なキリスト者、誠実な社会人の会」としてドン・ボスコが設立。各自は社会生活を営みながら、弱い立場の人、特に青少年に強い関心を持って、教会の一員として奉仕すると共に、生涯を通して自己の養成に励みます。

サレジアン・シスターズ（扶助者聖母会）

Daughters of Mary Help of Christians

世界の会員数：14,100 人
日本の会員数：257 人（15 支部）

サレジアン・シスターズは青少年のために働く女子修道会です。1872 年、ドン・ボスコとマリア・マザレロにより創立。日本では、教会・ユースセンター、学校教育、児童福祉、国際ボランティア、カウンセリング、滞日外国人の支援などの事業に携わり、青少年のために献身しています。

VDB（ドン・ボスコ女子在俗会）

Istituto Secolare Volontarie di Don Bosco

世界の会員数：1,300 人
日本の会員数：3 人

VDB は 1917 年 5 月、サレジオ会第 4 代総長のリナルディ神父によって創立されました。召命の場は各自の生活の場、特に職場と教会にあり、仕事においてプロであること、経済的な自立、精神的な成熟が求められます。VDB には三誓願があり、聖マリアが全てを心に納めていたように奉獻者であることには沈黙を守ります。

イエスのカリタス修道女会

Caritas Sisters of Jesus

世界の会員数：1,000 人
日本の会員数：461 人（49 支部）

イエスのカリタス修道女会はとくに貧しく小さい人びとのために働く女子修道会です。1937 年、カヴォリ神父とチマッツィ神父により日本で創立され、現在は 13 か国に広がっています。教会、学校教育、児童福祉、高齢者福祉、医療などの事業に携わり、人びとに神の愛を伝えるために献身しています。

ウニオーネ（扶助者聖母会同窓会世界連合）

World Confederation of the Past-Pupils of FMA

ウニオーネはサレジアン・シスターズの学校・施設で身につけた精神を実社会の中で継続して生かし、証しすることを目的としています。

サレジオ会同窓会世界連合

World Confederation of the Past-Pupils of Don Bosco

サレジオ会同窓会はサレジオ会の学校・施設で身につけた人間的・宗教的価値観を分かち合い、証しすることを目的としています。

世界のサレジオ家族の事業

	サレジオ会	サレジオ家族
ユースセンター	1,325 か所	3,697 か所
学校	961 校	2,000 校
職業・農業の訓練校	520 校	763 校
教会・宣教の拠点	1,902 か所	6,611 か所
社会事業	564 か所	486 か所
計	5,272 か所	13,557 か所

※データは 2001 年

日本のサレジオ家族の事業

ドン・ボスコの精神を受け継いで、日本各地で青少年のため、そしてキリストの愛を人びとに伝える活動をしています。

教会・ユースセンター 滞日外国人支援

11 か所



青少年司牧 ボランティア

DBVG、VIDES、見守り活動など



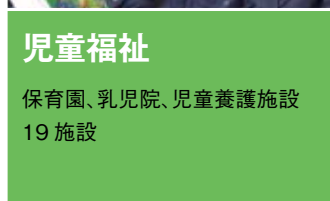
学校教育

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学
43 校



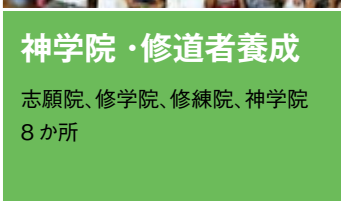
召命司牧

聖書学校、青少年対象黙想会、サマーキャンプなど



児童福祉

保育園、乳児院、児童養護施設
19 施設



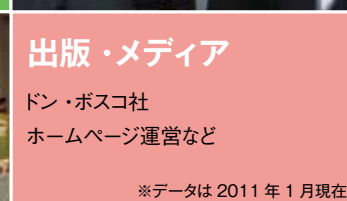
神学院・修道者養成

志願院、修学院、修練院、神学院
8 か所



医療・高齢者福祉

診療所、老人福祉施設
7 施設



出版・メディア

ドン・ボスコ社
ホームページ運営など

※データは 2011 年 1 月現在

伝記



完訳 ドン・ボスコ伝 NEW
テレジオ・ボスコ著 サレジオ会訳
A5判 540頁 ¥1,890

ドン・ボスコについての最新の歴史研究・資料をもとに執筆された伝記の待望の完訳版。数々の証言や記録、混乱するイタリアの状況を紹介しながら、ドン・ボスコの人柄と生涯とを克明にいきいきと描く。



ドン・ボスコ自叙伝
ドン・ボスコ著 石川康輔訳
四六判 350頁 ¥1,260

教皇ピオ9世の命令によりドン・ボスコ自身の手で執筆された自叙伝。幼少期から彼の事業が軌道に乗るまでの40年間の回想録。自分の生涯を示して、サレジオ会の精神を伝え、具体的な教育論を魅力たっぷりに語る。



青少年の友 ドン・ボスコ
キャサリン・ビーブ著 野口重光訳
新書判 221頁 ¥693

少年たちの神父になり、悩みや喜びを分かち合い、少年たちが神を知ることができるように助けたドン・ボスコ。その生涯を、親しみやすく魅力あふれるエピソードを中心に紹介する。小中学生にも読みやすい、手軽な新書判。



聖ヨハネ・ボスコのすすめ365日
山本克己訳
127×90mm 133頁 ¥383

ドン・ボスコが親しんだ格言。青少年をはじめ、すべての人々に繰り返し言われていた言葉で、日々の生活の困難の中にあっても、励ましや喜びを与えてくれる有意義な言葉の数々を365日分収載。ポケットサイズで携帯にも最適。



ヨハネ・ボスコのたいせつなゆめ
サレジオ会文 おむらまりこ絵 NEW
A4判 31頁 ¥1,260

「げんこつでは けんかはとめられないだよ」。夢の中で聞いた言葉を大切に心にとめたヨハネは、やがて司祭となり子どもたちのために一生をささげる。ドン・ボスコが9歳の時に見た夢の話が、温かい絵でよみがえる。



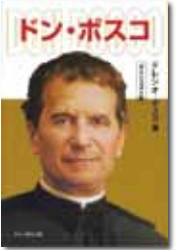
若者を育てるドン・ボスコのことば
ガエタノ・コンプリ編著
四六判 237頁 ¥1,050

「ともにいる教育」、愛・道理・信仰による「予防教育法」。若者を愛し、教育に生涯を捧げたサレジオ会創立者ドン・ボスコが語る、若者がいきいきと育つ教育法の秘訣が満載。若者とともに歩むすべての人にすめたい一冊。



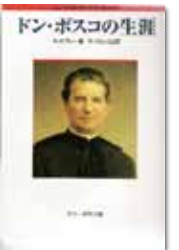
ドン・ボスコ 夢見る少年ジョヴァンニ
ジュゼッペ・ロランド監督 NEW
日本語吹替版 45分 1,000円

少年ジョヴァンニが青少年に生涯をささげる司祭になるまでの道のりを描く。喜びと快活さをもって友情を育み、多くの困難にあっても働きながら学び、神の計画を信じて司祭になる夢を追いかける。1987年、ELLE DI CI作品。



ドン・ボスコ ダイジェスト版
テレジオ・ボスコ著 サレジオ会編訳
四六判 367頁 ¥1,260

ドン・ボスコについての最新の歴史研究・資料をもとに執筆され、読みやすく定評のある伝記のダイジェスト版。ドン・ボスコの少年時代からサレジオ会創立初期までを中心に、いきいきと描く。



ドン・ボスコの生涯
A・オフレー著 F・バルバロ訳
B6判 515頁 ¥1,365

オフレー神父によるフランスアカデミー賞受賞作品を、バルバロ神父が日本語に訳し1942年に出版した名著。見捨てられた青少年のために生涯をささげ、教え子たちと共にサレジオ会を創立するドン・ボスコの歩みを描く。



マンマ・マルゲリタ ドン・ボスコの母
ピーター・ラッピン著 柳沼千賀子訳
四六判 288頁 ¥1,260

ドン・ボスコの母マルゲリタは、ヨハネ少年をゆるぎない信仰で導き、短い話を教え聞かせ、ドン・ボスコのもとに集まる身寄りのない少年たち皆の母となった。生涯を神にささげ、神の御摂理にすべてを委ねきった母の物語。

ドン・ボスコを知る
読書・DVDガイド



聖ヨハネ・ボスコ 青少年の友
キャロル・モンマルシェ文
オーギュスタ・キュレリ絵 児島輝美訳
200×130mm 71頁 ¥945

つなわたりができて、手品も上手な聖人、聖ヨハネ・ボスコは子どもたちをイエスへと導くためにすべてを尽くす。やわらかなイラストと短い言葉でつづる伝記絵本。小学生以上から。



共にいる教育 アッシステンツァ
岡道信編著
A5判 92頁 ¥1,050

青少年と共にいて喜びを分かち合うドン・ボスコの教育法「アッシステンツァ」(共にいること)の本質に迫る。長きにわたって学校教育に携わってきた著者がドン・ボスコの精神とその教育実践を分かち合う。



ドン・ボスコ
ロドヴィコ・ガスパリーニ監督
日本語吹替版 200分 3,000円

見捨てられた少年たちに自分の力を惜しみなく与えたドン・ボスコ。愛と信頼、強い心で少年たちを育んだ真の教育者の姿が美しい映像でよみがえる。2004年、イタリア国営放送RAIが2日にわたり放送した感動の作品。

クイズ! ドン・ボスコ トリビア

ドン・ボスコとサレジオ家族について、どれくらい知ってるかな？
ちょっと難しいものもあるけど、クイズに挑戦してみよう!

Q1 ドン・ボスコが9歳の時に見た夢に現れたマリア様と思われる女性は、ドン・ボスコに「謙遜で、強く、○○○○人になりなさい」と言いました。○○○○に入る言葉は次のどれ？
1.やさしい 2.たくましい 3.きよい
ヒント:男らしい!

Q2 ドン・ボスコのお母さんの名前は？
1.カルボナーラ
2.マルゲリタ
3.ティラミス
ヒント:マンマといえは？

Q3 ドン・ボスコは子どもたちが寝る前に短い話をしていました。その習慣は今もサレジアンファミリーの伝統として残っていますが、何というでしょう？
1.チャオ 2.ボンジョルノ 3.ボナノッテ
ヒント:寝る前のあいさつです。

Q5 ドン・ボスコは子どもたちに罰を与える教育ではなく、あらかじめ良いことを勧め、励ます「予防教育法」を実践しました。予防教育法で子どもたちに伝えるべき大切な3つのことがあります。それはなんでしょう？
ヒント:3つとも漢字2文字だよ。

Q4 ドン・ボスコが子どもたちによく質問した言葉から。「君はドン・ボスコの友達になりたい?」「ええ、なりたいです」「それならA+B-Cでありなさい。この意味がわかるかな?」「いいえ」「Aは○○○のこと。Bはbuono(ブオノ:良いこと)、Cはcattivo(カッティーヴォ:悪いこと)ということだよ」。さて、Aの○○○に入る言葉は？
ヒント:音楽の時間に習ったかも。速く!速く!

Q6 2010年、ドン・ボスコが事業を始めたトリノで聖骸布(十字架から降ろされたイエス・キリストを包んだとされる布)が公開されました。ドン・ボスコも聖骸布を見たことがあるのでしょうか？
ヒント:ドン・ボスコの時代にも公開されていました。

Q7 ドン・ボスコのモットー「Da mihi animas, cetera tolle (私に魂を与えよ、他の物は取り去れ)」は、もともと聖書にある言葉です。聖書のどこの言葉でしょうか？
1.創世記
2.エレミヤ書
3.コリントの信徒への手紙
ヒント:ソドムの王がアブラムに言った言葉。

Q8 ドン・ボスコは反対者から命を狙われることがたびたびありましたが、いつも突然現れて助けてくれる大きな犬がいました。その犬の名前は？
1.グリージョ 2.アダージョ 3.バッジョ

Q10 バチカンの聖ペトロ大聖堂内の上のほうにドン・ボスコの像が置かれています。その下のほうにはある有名な聖人の像があります。だれの像でしょう？
ヒント:鍵を持っている人

Q9 世界のサレジオ会員の数は、現在どれくらい？
1.約16,000人
2.約8,000人
3.約1,600人
ヒント:世界第2位だよ!

A1:2 いし、A2:2、A3:3、A4:allegra、A5:1、A6:、A7:、A8:、A9:、A10:、A11:、A12:、A13:、A14:、A15:、A16:、A17:、A18:、A19:、A20:、A21:、A22:、A23:、A24:、A25:、A26:、A27:、A28:、A29:、A30:、A31:、A32:、A33:、A34:、A35:、A36:、A37:、A38:、A39:、A40:、A41:、A42:、A43:、A44:、A45:、A46:、A47:、A48:、A49:、A50:、A51:、A52:、A53:、A54:、A55:、A56:、A57:、A58:、A59:、A60:、A61:、A62:、A63:、A64:、A65:、A66:、A67:、A68:、A69:、A70:、A71:、A72:、A73:、A74:、A75:、A76:、A77:、A78:、A79:、A80:、A81:、A82:、A83:、A84:、A85:、A86:、A87:、A88:、A89:、A90:、A91:、A92:、A93:、A94:、A95:、A96:、A97:、A98:、A99:、A100:、A101:、A102:、A103:、A104:、A105:、A106:、A107:、A108:、A109:、A110:、A111:、A112:、A113:、A114:、A115:、A116:、A117:、A118:、A119:、A120:、A121:、A122:、A123:、A124:、A125:、A126:、A127:、A128:、A129:、A130:、A131:、A132:、A133:、A134:、A135:、A136:、A137:、A138:、A139:、A140:、A141:、A142:、A143:、A144:、A145:、A146:、A147:、A148:、A149:、A150:、A151:、A152:、A153:、A154:、A155:、A156:、A157:、A158:、A159:、A160:、A161:、A162:、A163:、A164:、A165:、A166:、A167:、A168:、A169:、A170:、A171:、A172:、A173:、A174:、A175:、A176:、A177:、A178:、A179:、A180:、A181:、A182:、A183:、A184:、A185:、A186:、A187:、A188:、A189:、A190:、A191:、A192:、A193:、A194:、A195:、A196:、A197:、A198:、A199:、A200:、A201:、A202:、A203:、A204:、A205:、A206:、A207:、A208:、A209:、A210:、A211:、A212:、A213:、A214:、A215:、A216:、A217:、A218:、A219:、A220:、A221:、A222:、A223:、A224:、A225:、A226:、A227:、A228:、A229:、A230:、A231:、A232:、A233:、A234:、A235:、A236:、A237:、A238:、A239:、A240:、A241:、A242:、A243:、A244:、A245:、A246:、A247:、A248:、A249:、A250:、A251:、A252:、A253:、A254:、A255:、A256:、A257:、A258:、A259:、A260:、A261:、A262:、A263:、A264:、A265:、A266:、A267:、A268:、A269:、A270:、A271:、A272:、A273:、A274:、A275:、A276:、A277:、A278:、A279:、A280:、A281:、A282:、A283:、A284:、A285:、A286:、A287:、A288:、A289:、A290:、A291:、A292:、A293:、A294:、A295:、A296:、A297:、A298:、A299:、A300:、A301:、A302:、A303:、A304:、A305:、A306:、A307:、A308:、A309:、A310:、A311:、A312:、A313:、A314:、A315:、A316:、A317:、A318:、A319:、A320:、A321:、A322:、A323:、A324:、A325:、A326:、A327:、A328:、A329:、A330:、A331:、A332:、A333:、A334:、A335:、A336:、A337:、A338:、A339:、A340:、A341:、A342:、A343:、A344:、A345:、A346:、A347:、A348:、A349:、A350:、A351:、A352:、A353:、A354:、A355:、A356:、A357:、A358:、A359:、A360:、A361:、A362:、A363:、A364:、A365:、A366:、A367:、A368:、A369:、A370:、A371:、A372:、A373:、A374:、A375:、A376:、A377:、A378:、A379:、A380:、A381:、A382:、A383:、A384:、A385:、A386:、A387:、A388:、A389:、A390:、A391:、A392:、A393:、A394:、A395:、A396:、A397:、A398:、A399:、A400:、A401:、A402:、A403:、A404:、A405:、A406:、A407:、A408:、A409:、A410:、A411:、A412:、A413:、A414:、A415:、A416:、A417:、A418:、A419:、A420:、A421:、A422:、A423:、A424:、A425:、A426:、A427:、A428:、A429:、A430:、A431:、A432:、A433:、A434:、A435:、A436:、A437:、A438:、A439:、A440:、A441:、A442:、A443:、A444:、A445:、A446:、A447:、A448:、A449:、A450:、A451:、A452:、A453:、A454:、A455:、A456:、A457:、A458:、A459:、A460:、A461:、A462:、A463:、A464:、A465:、A466:、A467:、A468:、A469:、A470:、A471:、A472:、A473:、A474:、A475:、A476:、A477:、A478:、A479:、A480:、A481:、A482:、A483:、A484:、A485:、A486:、A487:、A488:、A489:、A490:、A491:、A492:、A493:、A494:、A495:、A496:、A497:、A498:、A499:、A500:、A501:、A502:、A503:、A504:、A505:、A506:、A507:、A508:、A509:、A510:、A511:、A512:、A513:、A514:、A515:、A516:、A517:、A518:、A519:、A520:、A521:、A522:、A523:、A524:、A525:、A526:、A527:、A528:、A529:、A530:、A531:、A532:、A533:、A534:、A535:、A536:、A537:、A538:、A539:、A540:、A541:、A542:、A543:、A544:、A545:、A546:、A547:、A548:、A549:、A550:、A551:、A552:、A553:、A554:、A555:、A556:、A557:、A558:、A559:、A560:、A561:、A562:、A563:、A564:、A565:、A566:、A567:、A568:、A569:、A570:、A571:、A572:、A573:、A574:、A575:、A576:、A577:、A578:、A579:、A580:、A581:、A582:、A583:、A584:、A585:、A586:、A587:、A588:、A589:、A590:、A591:、A592:、A593:、A594:、A595:、A596:、A597:、A598:、A599:、A600:、A601:、A602:、A603:、A604:、A605:、A606:、A607:、A608:、A609:、A610:、A611:、A612:、A613:、A614:、A615:、A616:、A617:、A618:、A619:、A620:、A621:、A622:、A623:、A624:、A625:、A626:、A627:、A628:、A629:、A630:、A631:、A632:、A633:、A634:、A635:、A636:、A637:、A638:、A639:、A640:、A641:、A642:、A643:、A644:、A645:、A646:、A647:、A648:、A649:、A650:、A651:、A652:、A653:、A654:、A655:、A656:、A657:、A658:、A659:、A660:、A661:、A662:、A663:、A664:、A665:、A666:、A667:、A668:、A669:、A670:、A671:、A672:、A673:、A674:、A675:、A676:、A677:、A678:、A679:、A680:、A681:、A682:、A683:、A684:、A685:、A686:、A687:、A688:、A689:、A690:、A691:、A692:、A693:、A694:、A695:、A696:、A697:、A698:、A699:、A700:、A701:、A702:、A703:、A704:、A705:、A706:、A707:、A708:、A709:、A710:、A711:、A712:、A713:、A714:、A715:、A716:、A717:、A718:、A719:、A720:、A721:、A722:、A723:、A724:、A725:、A726:、A727:、A728:、A729:、A730:、A731:、A732:、A733:、A734:、A735:、A736:、A737:、A738:、A739:、A740:、A741:、A742:、A743:、A744:、A745:、A746:、A747:、A748:、A749:、A750:、A751:、A752:、A753:、A754:、A755:、A756:、A757:、A758:、A759:、A760:、A761:、A762:、A763:、A764:、A765:、A766:、A767:、A768:、A769:、A770:、A771:、A772:、A773:、A774:、A775:、A776:、A777:、A778:、A779:、A780:、A781:、A782:、A783:、A784:、A785:、A786:、A787:、A788:、A789:、A790:、A791:、A792:、A793:、A794:、A795:、A796:、A797:、A798:、A799:、A800:、A801:、A802:、A803:、A804:、A805:、A806:、A807:、A808:、A809:、A810:、A811:、A812:、A813:、A814:、A815:、A816:、A817:、A818:、A819:、A820:、A821:、A822:、A823:、A824:、A825:、A826:、A827:、A828:、A829:、A830:、A831:、A832:、A833:、A834:、A835:、A836:、A837:、A838:、A839:、A840:、A841:、A842:、A843:、A844:、A845:、A846:、A847:、A848:、A849:、A850:、A851:、A852:、A853:、A854:、A855:、A856:、A857:、A858:、A859:、A860:、A861:、A862:、A863:、A864:、A865:、A866:、A867:、A868:、A869:、A870:、A871:、A872:、A873:、A874:、A875:、A876:、A877:、A878:、A879:、A880:、A881:、A882:、A883:、A884:、A885:、A886:、A887:、A888:、A889:、A890:、A891:、A892:、A893:、A894:、A895:、A896:、A897:、A898:、A899:、A900:、A901:、A902:、A903:、A904:、A905:、A906:、A907:、A908:、A909:、A910:、A911:、A912:、A913:、A914:、A915:、A916:、A917:、A918:、A919:、A920:、A921:、A922:、A923:、A924:、A925:、A926:、A927:、A928:、A929:、A930:、A931:、A932:、A933:、A934:、A935:、A936:、A937:、A938:、A939:、A940:、A941:、A942:、A943:、A944:、A945:、A946:、A947:、A948:、A949:、A950:、A951:、A952:、A953:、A954:、A955:、A956:、A957:、A958:、A959:、A960:、A961:、A962:、A963:、A964:、A965:、A966:、A967:、A968:、A969:、A970:、A971:、A972:、A973:、A974:、A975:、A976:、A977:、A978:、A979:、A980:、A981:、A982:、A983:、A984:、A985:、A986:、A987:、A988:、A989:、A990:、A991:、A992:、A993:、A994:、A995:、A996:、A997:、A998:、A999:、A1000:、A1001:、A1002:、A1003:、A1004:、A1005:、A1006:、A1007:、A1008:、A1009:、A1010:、A1011:、A1012:、A1013:、A1014:、A1015:、A1016:、A1017:、A1018:、A1019:、A1020:、A1021:、A1022:、A1023:、A1024:、A1025:、A1026:、A1027:、A1028:、A1029:、A1030:、A1031:、A1032:、A1033:、A1034:、A1035:、A1036:、A1037:、A1038:、A1039:、A1040:、A1041:、A1042:、A1043:、A1044:、A1045:、A1046:、A1047:、A1048:、A1049:、A1050:、A1051:、A1052:、A1053:、A1054:、A1055:、A1056:、A1057:、A1058:、A1059:、A1060:、A1061:、A1062:、A1063:、A1064:、A1065:、A1066:、A1067:、A1068:、A1069:、A1070:、A1071:、A1072:、A1073:、A1074:、A1075:、A1076:、A1077:、A1078:、A1079:、A1080:、A1081:、A1082:、A1083:、A1084:、A1085:、A1086:、A1087:、A1088:、A1089:、A1090:、A1091:、A1092:、A1093:、A1094:、A1095:、A1096:、A1097:、A1098:、A1099:、A1100:、A1101:、A1102:、A1103:、A1104:、A1105:、A1106:、A1107:、A1108:、A1109:、A1110:、A1111:、A1112:、A1113:、A1114:、A1115:、A1116:、A1117:、A1118:、A1119:、A1120:、A1121:、A1122:、A1123:、A1124:、A1125:、A1126:、A1127:、A1128:、A1129:、A1130:、A1131:、A1132:、A1133:、A1134:、A1135:、A1136:、A1137:、A1138:、A1139:、A1140:、A1141:、A1142:、A1143:、A1144:、A1145:、A1146:、A1147:、A1148:、A1149:、A1150:、A1151:、A1152:、A1153:、A1154:、A1155:、A1156:、A1157:、A1158:、A1159:、A1160:、A1161:、A1162:、A1163:、A1164:、A1165:、A1166:、A1167:、A1168:、A1169:、A1170:、A1171:、A1172:、A1173:、A1174:、A1175:、A1176:、A1177:、A1178:、A1179:、A1180:、A1181:、A1182:、A1183:、A1184:、A1185:、A1186:、A1187:、A1188:、A1189:、A1190:、A1191:、A1192:、A1193:、A1194:、A1195:、A1196:、A1197:、A1198:、A1199:、A1200:、A1201:、A1202:、A1203:、A1204:、A1205:、A1206:、A1207:、A1208:、A1209:、A1210:、A1211:、A1212:、A1213:、A1214:、A1215:、A1216:、A1217:、A1218:、A1219:、A1220:、A1221:、A1222:、A1223:、A1224:、A1225:、A1226:、A1227:、A1228:、A1229:、A1230:、A1231:、A1232:、A1233:、A1234:、A1235:、A1236:、A1237:、A1238:、A1239:、A1240:、A1241:、A1242:、A1243:、A1244:、A1245:、A1246:、A1247:、A1248:、A1249:、A1250:、A1251:、A1252:、A1253:、A1254:、A1255:、A1256:、A1257:、A1258:、A1259:、A1260:、A1261:、A1262:、A1263:、A1264:、A1265:、A1266:、A1267:、A1268:、A1269:、A1270:、A1271:、A1272:、A1273:、A1274:、A1275:、A1276:、A1277:、A1278:、A1279:、A1280:、A1281:、A1282:、A1283:、A1284:、A1285:、A1286:、A1287:、A1288:、A1289:、A1290:、A1291:、A1292:、A1293:、A1294:、A1295:、A1296:、A1297:、A1298:、A1299:、A1300:、A1301:、A1302:、A1303:、A1304:、A1305:、A1306:、A1307:、A1308:、A1309:、A1310:、A1311:、A1312:、A1313

日本の各地を巡礼する
聖遺物(右腕)をおさめたご像

せいいぶつ 聖遺物 とは？

聖遺物は、信仰を
もって大切に敬われ
るものです。聖人
の遺骨の一部や、聖人
が生前に使用していたものな

ど、さまざまなものがあります。聖書には、聖遺物につ
いて次のような記述があります。「神は、パウロの手を通
して目覚ましい奇跡を行われた。パウロが身に着けていた
手ぬぐいや前掛けを持って行って病人に当てると、病気はい
やされ、悪霊どもも出て行くほどであった。」(使徒言行録19章12節)

聖遺物に魔法の力があるわけではありません。聖遺物は、神が聖
人たちを通して取り次ぎ、聖人たちがこの世を去った後も生きておら
れることのしるしです。教会は、聖人たちの生き方や聖遺物を大切にすること
をとおして、神をたたえます。世界の人々がこの世で生きるための光、勇気を与えら
れるよう、ドン・ボスコの聖遺物は世界を訪れます。

聖ヨハネ・ボスコが世界中をめぐる、 日本にやって来る！

ドン・ボスコの風 No.6 聖ヨハネ・ボスコ
聖遺物巡礼記念特別号
BOLLETTINO SALESIANO
2011年1月31日発行

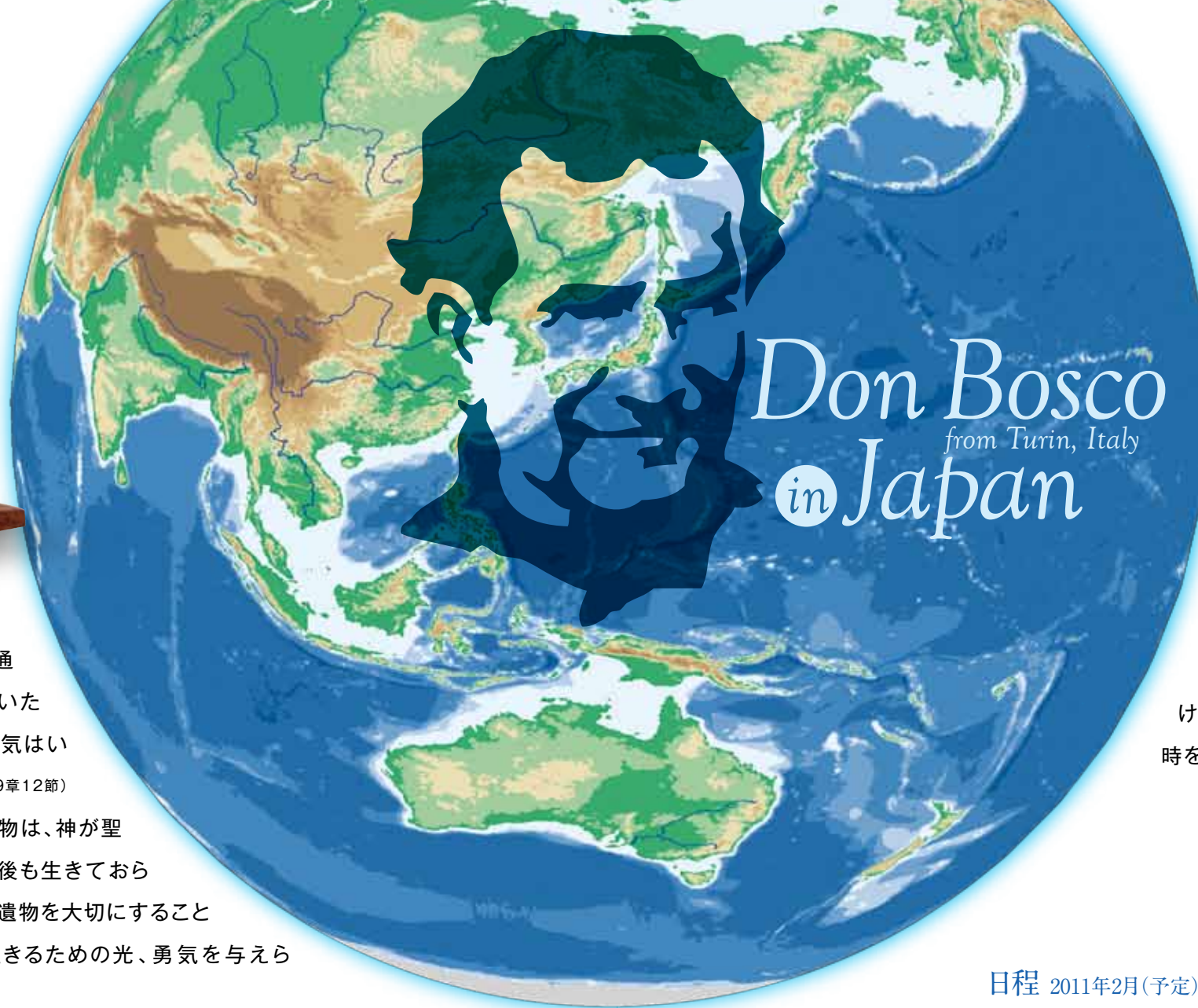
編集人 山野内 倫昭
発行人 アルド・チブリアニ
発行所 カトリック・サレジオ修道会
〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12 サレジオ会管区長館
電話:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190
Eメール:DB-no-kaze@donbosco.jp
郵便振替 00100-7-412947「ドン・ボスコの風」編集事務局
編集制作 ドン・ボスコ社
デザイン制作 (有)ステップ企画 中村 たかや
印刷所 日之出印刷株式会社

ドン・ボスコが1877年に創刊した“Bollettino Salesiano”の
日本版「ドン・ボスコの風」は、創刊者の方針により出来るだ
け多くの方々に無料でお届けすることになっております。その
ために様々な努力を払っていますが、この雑誌の主旨にご賛
同くださる方には是非ご援助いただきたく、挟み込みの払込
取扱票にてご寄付を募ります。よろしくお願い申し上げます。

from the Editor

編集後記

ドン・ボスコの霊性(生き方)は150年を通して全世界に広
がり、日本にも土着しました。ドン・ボスコ聖遺物巡礼記念特
別号では、現在も生きているドン・ボスコの霊性を描いてい
ます。この巡礼を通して神様と教会をもっと愛し、イエスの福
音を述べ伝える素晴らしいきっかけとなりますように。(M)



せいいぶつじゅんれい 聖遺物巡礼 とは？

サレジオ会創立150周年の2009年、ドン・ボスコ
の聖遺物はイタリア・トリノを出発し、2015年のド
ン・ボスコ生誕200周年までの6年間、世界中を訪
れる旅をしています。世界の人々がドン・ボスコの働
きをととして神さまの愛と出会い、生きる光と勇気を
得るためです。

そして2011年2月、ドン・ボスコは日本にやって来
ます。宮崎から東京まで、サレジオ家族の教会や学校な
どを巡ります。

ドン・ボスコと出会い、ドン・ボスコの言葉に耳をかたむ
けましょう。そして、ともに喜び祝い、まじわり、祈る、豊かな
時をすごすことができますように！

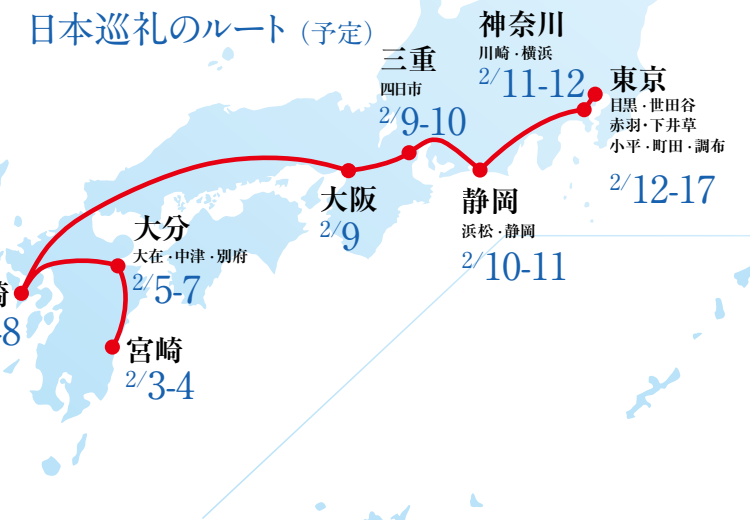
日程 2011年2月(予定)

赤字で示した教会等のミサ・行事には皆様ご自由に参加できます。

2日(水)	成田	空港到着
3日(木)	PM 宮崎	イエスのカリタス修道女会(SCG)宮崎修道院
4日(金)	AM 宮崎	日向学院
5日(土)	AM 大分	サレリアン・シスターズ(FMA)大分修道院
	PM 大分	サレジオ会(SDB)中津支部
6日(日)	大分	カトリック別府教会(9時 ミサ)
7日(月)	AM 大分	海の星幼稚園(別府)
	PM 長崎	SCG外海修道院
8日(火)	AM 長崎	FMA大村修道院
9日(水)	AM 大阪	大阪星光学院
	PM 三重	SDB四日市志願院
10日(木)	PM 静岡	カトリック浜松教会(17時 集い・20時 ミサ)
11日(金)	AM 静岡	FMA静岡修道院／静岡サレジオ
	PM 神奈川	カトリック鷺沼教会(19時 ミサ)
12日(土)	AM 神奈川	SDB横浜志願院
	PM 東京	サレジオ学院 幼稚園・中学校・高等学校
13日(日)	東京	目黒星美学園小学校(15時 教育シンポジウム)
	東京	カトリック碑文谷教会(10時30分 ミサ) (PM 青少年の集い)
14日(月)	AM 東京	目黒サレジオ幼稚園／目黒星美学園小学校
	PM 東京	目黒星美学園中学校・高等学校
15日(火)	AM 東京	星美学園(赤羽)
	PM 東京	カトリック下井草教会(19時 ミサ)
16日(水)	AM 東京	SCG本部修道院
	PM 東京	サレジオ小学校・中学校
17日(木)	東京	サレジオ高専／東京サレジオ学園
18日(金)	成田	SDB調布神学院 サレジオ家族の巡礼と静修の日 カトリック調布教会(17時 ミサ) 空港出発



メキシコ巡礼の様子



ストレンナ 2011 2011 STRENNA

【ストレンナ】

イタリア語で「贈りもの」。

ドン・ボスコの時代からの習慣で、新年にサレジオ会総長が「今年の目標」として発表しています。

イエスは呼びかける。
来なさい、
そうすればわかる
Come and See.

(ヨハネ1章39節)

人生の意味をさがし求める人に語ろう。

人生は贈りもの

神様からの招き

あなたにしか果たせない使命



私たちの心の奥には、ある問いかけがあります。自分は何のために生きているのか、どうしたら意味のある人生を生きられるのか。自分の中を見つめても、答えはなかなか見つかりません。

いのちは神様からの贈りものです。いただきたいのちを、進んで責任をもって受けとめるとき、贈りものを活かすことができます。

一人ひとりのいのちの中には、計画が秘められています。自分自身の経験、歴史、神から来る光を投げかけるとき、その計画は少しずつ明らかになります。そしてそれは、私たちの応答を求めます。

神様の計画と私たちの応答、こうして、私たちは、この世界と存在するすべてのものとの関わりの中にある、自分自身を見いだします。

この世界とそこにあるものは、私たちの望みを満たすことはできず、私たちはそれに従属しません。私たち、特に若者は、生きることの意味、存在理由、計画をもっていのちを与えてくださった方を渇き求めます。

イエスは呼びかけています。「来なさい、そうすればわかる。」

(チャーベス総長による2011ストレンナ解説より)